

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	民家改修型の木造建築を活かし、家庭的な雰囲気を保ちながら、利用者様と日常を過ごす努力をしている。	理念を玄関と事務所の目につく場所に掲示し、常に意識して実践につなげるようになっています。入社時にも理念について説明し、その後も振り返る機会を持っています。職員ヒアリングでも「自分らしく思い通りに過ごしていただくよう、意識して関わっている」との声をお聞きました。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議や行事の際のおすそ分けなど、機会は少ないが折を見て触れ合うようにしている。	開設当初から組合に加入し、地域とのつながりを大切にしています。昨年はそれまでできていた地域の交流会や文化祭などに参加できませんでした。春のお祭りには獅子舞がきて舞ってくれました。コロナ禍以降、ボランティアの来訪がなくなっています。法人が行っている、子育て支援事業に参加している未満児のお子さんやご両親と交流できる機会があります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の文化祭への作品展示や見学参加など、活動の姿を見ていただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍により中止していた運営推進会議を昨年より再開。参加していただいている方々の意見を参考に、少しずつ成長していると感じる。	2か月に1回開催しています。利用者家族に参加を呼びかけ、利用者の状況や行事、アクシデントの報告などを行って、ご意見をいただいています。会議の記録は誰でも見られるように玄関におかれています。出された意見は職員会で共有しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	昨年末の実地指導を経て、自施設に不足していたものを指摘していただき改善に向けて行動するとともに、以前より密に連絡を取るようになった。	実地指導を経て担当者ともつながりができたので、不明な点や確認したい事など積極的に連絡をとる様になっています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	月1回法人内の事業所管理者が集まり、法人として身体拘束対策委員会を開催、各事業所の職員会議にて共有、実践している。	身体拘束廃止の指針、虐待防止指針を作成して、学習会や研修会を行っています。法人内で開催される身体拘束対策委員会に施設長が出席し、話し合われた内容をホームに持ち帰り日々のケアに活かすよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	月1回法人内の事業所管理者が集まり、法人として虐待防止委員会を開催、各事業所の職員会議にて共有、実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	積極的に実践はできていないが、職員個人個人で研修に参加、また自施設での学習会のテーマに設定して学習していければと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用開始時に説明を行い、入居後も疑問や不安な面に関しては、電話や通信アプリ、面会時などを利用して、随時受け付けられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や通信アプリ等で、随時意見や要望を受け付け、運営推進会議にて発表、相談するようにしている。	通信アプリを使って生活の様子を家族に伝えると同時に、意見や要望をお聞きするようにしています。面会制限の緩和希望等お聞きしたご意見は、職員会で共有しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの要望や意見は、主に月1回の運営会議で発表、相談している。	職員会にて出された意見は、法人の運営会議に諮り検討するようにしています。年2回の施設長との個人面談も計画されており、意見を伝える機会が確保されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に一度、各職員が自己評価を行って、管理者と面接し、結果を本部に提示して、検討や昇給などにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	2か月に1度の法人全体での学習会は中止となり、各事業所ごとの学習会開催となったが、より専門的な事柄が学習できるようになった。要望があれば外部の講習や研修への参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人内の他事業所間での交流は、法人内交流会のみとなってしまう、以前より機会が少なくなってしまった。他法人との交流はもっと少ない。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	情報提供書やサマリーを鵜呑みにせず、実際に話しかけるなど、積極的に関わりあう努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前や入居時、ご家族と面談して傾聴するとともに、疑問や質問などがあれば、随時受け付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	情報提供書やサマリーを鵜呑みにせず、実際に話しかけや積極的に関わりあう努力をして、何が必要かを探る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護ではなく、あくまで援助であり、人生の先輩であることを心の中において接していきたいと呼びかけているが、まだ努力していくべきと考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	通信アプリや電話などを活用し、ご家族との連絡を取り合いながら面会の機会を増やし、関係が希薄にならないように声掛けをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	全体的に利用者様の介護度が高まるにつれ、外出や面会の機会が減り、関係が希薄になってきていると感じる。運営推進会議や行事などの機会を活用していきたい。	入所時は知人や親せきの面会もあった利用者も、状況の変化で面会も外出も難しくなり、馴染みの関係継続は困難になっています。理美容は、以前は近所の業者が来てくれていましたが今は職員がカットしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	普段、入床して過ごす方が大半になってしまってきているが、ホールに来られる方々のコミュニケーションができるよう関係を取り持つ。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了の大半が逝去によるものであり、あまり関わりを持っていない。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月の職員会議にて検討し、なるべく利用者様本人の希望に沿うようにしている。	日々の会話などから思いを汲み取る努力をしています。思いの表出が難しい利用者は、表情や仕草で判断するように努め、そのことを記録に残して申し送りや職員会にて共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時や面会時にご家族に聞き取りを行ったり、会話が可能な利用者様には直接伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	なるべく本人の意向に沿うことができるよう、無理はさせないように考えて援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	特に意思表示が困難な利用者様に対しては、ご家族と相談するなど協力をお願いして、なるべく本人の意思を優先できるよう、ケアプランに反映するようにしている。	毎月の職員会にてケア検討の時間を設け、利用者の日々の様子を確認し合い、短期目標・長期目標の検討と評価を行って、家族の意向を加えてプランの見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日誌や観察記録、申し送りを通じて、情報を共有し、職員会議にて検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日常が同じような繰り返しになってしまいがちになっている。行事や他事業所との交流を取り入れていきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	季節に応じた花火大会やイルミネーション鑑賞、お祭り参加、外食など、行ける方は限られるが、できる限り参加していく。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族の都合や利用者様の状態を鑑み、受診や往診の選択をしている。緊急時には電話等で相談して、場合によっては緊急受診や往診を受けられる体制を整えている。	1名は以前からのかかりつけ医に、家族の付き添いで受診しています。変化がある場合には書類にまとめて持参してもらっています。他の利用者は月2回の往診で対応しています。家族には状況の変化によって通信アプリで連絡しています。歯科も必要に応じて往診をお願いしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	受診や往診時に、医師や看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療施設と連携をとって対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族や本人の希望を聞き取って確認し、できるだけ穏やかにその時を迎えられるように考えている。利用者様が健常な時から、ご家族に終末期の意向を聞き取り、また、その時が近づいた段階で意思の再確認を行う。	重度化や終末期についての指針を、契約時に説明して同意をいただいています。身体状況の変化に伴い、家族や医師、ホームで話し合いを持ち、方針を確認しています。臨時の職員会にて看取りに向けて共有するようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	学習会が各事業所ごとになったので、専門的な分野も学びやすくなったと感じている。外部講師(消防署職員など)による講習など、開催できればと考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年3回の防災訓練のうち、2回の通報訓練、避難訓練、消火訓練の実施をして方が一に備えている。今年度からBCP訓練も実施している。	年3回、通報・避難・伝達の訓練を行っています。消防署からも参加していただいて、指導を受けています。近くの小屋に備蓄品が用意されており、持ち出し品もリュックサックにまとめられています。発電機の購入を検討しています。	訓練を行った後、振り返りを行い、その中で明らかになった課題について運営推進会議や職員会などで検討され、次に活かされるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	あまりなれなれしく碎けて接することなく、また、固くなりすぎて距離を感じない程度の関わりを心掛ける。学習会などでスピーチロックや言葉による虐待が無いように学習している。	排泄介助時にはカーテンや戸を閉める、周囲にわからないように声掛けをする等を徹底し、職員同士声を掛け合い確認し合っ、プライバシーに配慮した支援を心掛けています。またスピーチロックの学習会などを定期的に行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	居室から出てくるときに羽織る衣服を選んでいただいたり、トイレの声掛けや起床の声掛けは、本人の意思を確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常日頃から注意しているが、まだ職員の都合で進めてしまうことが見受けられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替え時に選択できる方には、その都度声掛けをして選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	肉が良いか魚が良いかなどメニューを選択していただいたり、できる方には食器拭きなどのお手伝いをお願いしている。	冷蔵庫の食材を見ながら、利用者の好みをお聞きして調理しています。行事食も取り入れ、季節を感じてもらえるように工夫し、誕生日もケーキや好きな献立で祝います。調理の下準備や皮むき、食器洗いも職員と一緒にやる時があります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	医師と相談しながら、その方に必要な量を検討し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	本人による歯磨き、職員の指による口腔ケア、義歯の洗浄など、利用者様によってケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレを使用できる方には、できる限りお願いしているが、本人に無理のないように配慮している。	3割の利用者が全介助で、おむつ交換が必要です。トイレで排泄できる利用者には、職員が個々の排泄パターンを把握して、時間で声掛けをしてお誘いしています。排泄表に回数や状態を記録し、職員間で共有しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェック表を利用し、水分量や食べ物の調整、場合によっては薬の服薬や、摘便・浣腸などの使用をして調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴の時間はある程度決まっているが、本人の状況(排泄の様子など)によっては、午前中に行う場合もある。入浴やシャワー浴が困難な利用者様には、全身清拭やドライシャンプーなどで対応している。	曜日は固定せず、週2回入浴するようにしています。状態によってはシャワー浴や清拭で対応することもあります。入浴剤を使ったり、冬至にはゆずを浮かべたりしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の希望に、可能な限り寄り添い、無理強いほしないように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員会や観察記録などで情報を共有し、医師とも連携して服薬量の調節を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	グループホームの特性か、毎日が同じような繰り返しになっていることが多い。行事などの機会を活用し、変化が感じられるようにしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出できる方には、ご家族や本人の要望があれば対応しているが、自ら外出を希望される方がほとんどいない。天気が良い日などは声掛けして、外のベンチに誘うなど工夫していく。	利用者の半数以上が車いす使用のため、以前はできていた散歩や季節のお出かけが難しくなっています。声をかけるようにしていますが、外出の希望は聞かれなくなっています。月々の行事の中でドライブと外食ができるように考えています。	移動が難しい方が増えていますが、天気の良い日には、短時間でも外に出て日向ぼっこをしたり、お茶を飲んだり外気浴ができるような検討をされることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭を所持している利用者様は現在入居していない。以前は自分で管理されている方もいた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自ら行える利用者様は現在居ないが、本人が希望すれば電話などの対応をする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールの蛍光灯を少なくして、昔の居住空間を再現している。毎日の清掃で清潔を保つ。ホールを飾り付け、季節を感じていただく。	ホールのすぐ横に調理スペースがあり、調理のにおいや音を感じられて、とても家庭的な雰囲気です。壁には職員とともに制作した立派な貼り絵がいくつも飾られ、にぎやかにしてくれています。民家改修のホームのため、ホールのスペースは広くはないですが、それがどこか懐かしい感じを残しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールで過ごすことを強要せず、なるべく本人の希望に沿えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族にお願いして、ぬいぐるみや写真など、なじみのものを居室に置けるようにしている。	家族と相談し、それまでの生活を再現できるようにしています。写真や位牌、メモ帳など慣れ親しんだ物をおいて、安心できる居場所作りを心がけています。濡れたタオルをかけて乾燥対策にも配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様ができることは積極的にこちらからお願いして、なるべく活躍の場が持てるように工夫する。		